

なにわ たいむず

No.111



contents

- 01 news / 管理者うるしまのヨモヤマバナシ
- 02 お母さんの日々あれこれ
- 03 ブラマエダ / アトリエナニワ
- 04 Case Book
- 05 ジムインこいけのなんでも日記
サポータークラブ
- 07 スタッフ紹介

利用者さんの余暇外出、ご報告です

5月に新型コロナウイルス感染症の社会的な位置づけが変わり、なにもわの里では利用者さんのご実家等への外泊が7月から段階的に再開となりました。施設からの外出、例えば外食ですと、5月以前はテイクアウトが中心でした。現在は、お店での飲食も行うようになり、焼肉屋やレストランでいつも違う雰囲気を楽しんで頂いています。

7月末、利用者さんとの電車の旅から戻ったスタッフさんが「暑かったです！」と笑いながら話しかけてくれました。現場業務の合間を縫っての準備や企画、本当にご苦勞様です。スタッフにとっても、利用者さんの嬉しそうなお姿に出会える貴重な時間になっているのだから、と感心しました。

(小池)



NEWS

きつず・連携室の取組みが

『福祉新聞』に掲載されました！

2023年7月17日発行の福祉新聞に、柏原市からの委託事業やこれまでの取組みが掲載されました！記事の反響も大きく、複数から問い合わせがある状況です。

きつずが開所して今年で12年目となりました。この間、いっしょに頑張ってきた利用者さん、ご家族、スタッフのことを考えると、こうして記事として取り上げられることは感慨深いものがあります。

とは言え、障害児者福祉の課題は山積みです。これからも自分たちの持てる力を最大限発揮することで、地域に貢献できる事業所として存在していきたいと思えます。

記事にはきつずの卒業生に事例として協力していただきました。ご協力ありがとうございました！

(漆嶋)



管理者も暑さの

災害級の暑さに要注意です

記録的な暑さが続きます。皆さま、調子はいかがでしょうか？私は、暑さのため、寝苦しい夜が続く、日中に疲れが残ってしまいます。暑さは早く一段落してほしいと切に願います。

連日のニュースでも厳しい暑さについて報道されていますが、7月の最高気温は過去100年間で最高だったようで、気象庁は、「暑さのため不要不急の外出は控えるなど基本的な対策を徹底してほしい」とのことです。『不要不急』という言葉は、コロナ感染拡大時の緊急事態宣言のときを思い出します。災害級の暑さという認識を持った判断をしていきたいと思えます。

7月末でスタッフが2名退職となりました(事情により1名はもうしばらく勤務してもらえることになりました)。状況や体調などそれぞれの事情がありましたが、いなくなることは率直に寂しく思います。ただ二人とも、次も知的に障害のある方や自閉スペクトラム症の方と関りのある仕事に就きたいという話を聞き、自分自身が救われる思いでした。ここでの利用者さんやスタッフとの関りの中で本人たちは何かしら得るものがあつたのかなと思うと、誇らしい気持ちになりました。二人には心より感謝します。これからの人生での活躍を願いたいと思えます。

前回の記事で、週1回豚の生姜焼き弁当を作っているお話をしました。ありがたくも記事を読んだ方から励ましの声をかけていただいたおかげもあり、なんとか継続しています。当初の狙い通り、繰り返しすることで手際も良くなり、子どもたちからは味付けも好評です。ただ、弁当を作る日はいつもより1時間早起きしないと間に合わず、時間短縮が当面の課題です。パートナーからはそろそろ飽きてきたからとメニューの変更を依頼されていますが、時間短縮を目指し、もうしばらく「豚の生姜焼き弁当一択作戦」を継続します！

ヨモヤマバナー



夏といえば

夏はきれい！日焼けはまっぴらだし、洗濯物は多いし、大嫌いな虫はいろいろやってくるし、朝夕花木に水やりしないといけないし！プールだ海だと、子供を喜ばせようと頑張ったのははるか昔。

夕方に差し掛かり、エアコンのきかない台所に立つ気がせず、クーラーのきいた部屋に寝ころんだ時、自閉ちゃんの息子の地雷ワードの「あーしんど！」がポロリ。しっかり聞き洩らさず、「僕しんどない！」と即答する息子。(しまった！)と内心思いつつ、咄嗟に「元気やから、冷蔵庫からアイス2つ持ってきてー」「氷入りのアイスコーヒーも2人分持ってきてー」と言うと、ホイホイ自分の分と2つずつアイスとコーヒーを用意して、寝ころんだままの母のところへ届けてくれる、食いしん坊で気の利く息子！好きなものが一緒でよかった！再び寝ころんだまま、「空のコップも片づけて～」とどこまでも調子に乗って甘える母(笑) 夏っていいやん！

by 晩御飯は何にしよ？

担当者コメント欄

新型コロナウイルスが5類に引き下げになり初めての夏ですね🌻

「我慢してきたことを楽しむ夏」「今まで通りに過ごす夏」「クラブ活動や宿題の夏」「家族とのんびり過ごす夏」など、いろんな形の夏がありそうですね。

皆さんはどんな夏をお過ごしでしょうか？🌿
インタビューへのご協力ありがとうございました(*^^*)

(越智・久保)

今回のテーマ

我が家の夏と
言えば…？



お母さんが日々感じていることを
ちよつとだけ垣間見るコーナーです



夏のルーティン

我が家の夏と言えばかき氷、クーラー！

『兄弟2人と母の3人で日中に作るかき氷🍧』

シロップはいちご味に抹茶味にたまにメロン味。

抹茶味はグリーンティーの粉末を濃いめで溶かして作ります♪

『毎朝の「クーラー付けて！」「暑いのかかん～(T_T)』』

息子たちの朝起きてきて一言目。これを聞くと「ああ～今年の夏が始まったな」と思います。(笑)

我が家の兄弟の夏と言えば…焼肉とスイカ！

『お誕生日リクエスト🍰』

お兄ちゃんのお誕生日は8月。ここ数年は「外で焼肉を食べたい！」とリクエストがあり、家族みんなで焼き肉を食べに行っています^^

『夏限定！夕食後のデザート🍉』

弟はスイカが大好き。この時期になると夕食後のデザートはスイカ。どんなに大きいスイカでも1人で1/4は食べます！私も少し分けてもらおうと近寄るけど、「僕の無くなるよ？」と言いたそうな表情で見つめられ…いつも分けてもらうことを諦めています。(笑)

byひろみママ



理事長マエダが、ブラブラするコーナーです

が、紙面の関係上、超々コンパクトにまとめさせていただきました。山崎様、松田様ありがとうございました。

マエダ「ありがとうございます。共に、「家族の想いをカタチにするお手伝いができればと思います」

マエダ「不動産を含め、というのが驚きです。松田さんは親の立場でもあるという事ですが？」

マエダ「今日は親亡き後を見据え画期的なサービスを開始された『ふくし信託』についてお聴きます」

はじまりました「ブラマエダ」今回は、「ふくし信託」の山崎様、松田様をブラブラと訪ねました。



「ふくし信託」様
を訪ね、ブラブラ



アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

【ツールの説明】

- ・ 1日の決まった時間(16:00~17:00)に通貨に見立てたカードをもらう。
- ・ 通貨に見立てたカードが5枚貯まったらツール(図1)を持ってコンビニに行き、欲しいコーヒーを買う。

【ツールのメリット】

- ・ コンビニに買いに行く見通しがつく。
- ・ 定期的にコンビニで飲み物を買える。

『コンビニ外出』

図1



ここに欲しいコーヒーを入れる

通貨に見立てたカードを貯める

スタッフが渡す

図2



Case なにわの里 支援の実践紹介 book



「和紙製品終了式」

～いい形で終えるために～

通所支援 1 係 広谷 祐樹



【はじめに】

「ワークサポートなにわサテライト」では、利用者さんの日中の活動として牛乳パックを再利用した紙漉き、和紙製品作成に取り組んできました。法人の設立が1990年で、今年で33年目となりますが、2006年頃から紙漉き作業に取り組んでいた記録が残っています。利用者さんによっては、長い方だと15年ほどその作業に携わってきたこととなります。

過去には、作成した製品を法人内の催しの場や地域のバザーで売り出したり、定期的に会議を開いて新製品を模索したりと、力を入れて取り組んできました。ですが、これまで作成の主軸となっていた利用者さんたちが歳を重ね、能力や意欲の低下が顕著になってきました。また、そもそも製品を作成しても販売ルートを確認することが難しく、製品を作っても売る機会がないという状況が長らく続いており、それも意欲低下の一因となっていました。



紙漉き作業の様子（2006年）



紙漉き作業の様子（2007年）

【今回の支援を行った経緯】

上記のことを踏まえ、日中の活動として紙漉き、和紙製品作成に取り組むことを終了する決断をしました。長年取り組んでいた活動であるため、スタッフにとっても思い入れが深く、様々な想いが頭をよぎりましたが、一度終えることで、今の利用者さんに適した活動を改めて検討し直すいい機会になると考えました。

しかし、一つ懸念がありました。物事が終わることには、ネガティブな印象が付き物です。作業の終了を伝えることで、今まで頑張って取り組んできた利用者さんの自信喪失に繋がらないだろうか、と。そこで、和紙製品作成の終了を利用者さんにとって“いい形”で終えられるように、「和紙製品作成終了式」を実施することにしました。終了式では、理事長からの挨拶と表彰状の授与を実施することにしました。

まず利用者さんへは紙漉き、和紙製品の作成が終了すること、加えて終了式を実施する旨を、事前に案内を掲示することでお知らせしました（写真①）。「終わるねんなあ」と寂しそうにつぶやく方や、静かに文面を読み込む方、あまり関心を示さない方と、反応は様々でした。



写真①



自作の表彰状

【当日の様子】

当日、Aさんは表彰状の授与の練習のためか、両手を前に出して受け取る動作を何度も行っていました。言葉を使わない方なので、案内でどこまで伝わっているか心配でしたが、その方なりに情報を整理して、自身の経験と踏まえて理解をされているのだと感じました。

サテライトのスタッフが流れの説明をした後で、理事長から表彰状の授与が順に実施されていきました。参加の度合いは利用者さんによって違いましたが、皆名前を呼ばれると、スムーズに表彰の場へ向かっていました。少し照れながら、どこか誇らしげに賞状を受け取る姿が印象的でした。

Bさんは、直前まで式にはあまり積極的に参加されず、自分のPCを見て過ごしていましたが、名前が呼ばれる直前それを察知してかマスクを装着して、所定の場所に向かい授与されるのを待っていました。コロナ禍になってから、こういった表彰を受ける機会はあまりなかったと推測しますが、Bさんは恐らく「表彰を受ける際はマスクを着用した方がいい」と自身で考えて行動されたのだと考えました。

また、この方は普段とても大きい声で独り言を言うことが多いのですが、式の最中はいつもより小さな声で話していました。もしかすると、その場の状況に合わせて自分の行動を調整していたのかもしれませんが。今まで知らなかったBさんの一面を垣間見た瞬間でした。

【まとめ】

終了式が利用者さんそれぞれにとって、どんな経験になったのかはまだわかりません。ですが終了式の実施を通して、改めて利用者さんは色々な経験を通して学んだり、状況を見て判断したりすることができると思えました。彼らの中で今回の出来事がどういった学びになっていくか、伴走しながら見守っていきたいと思います。



ジムインこいけのなんでも日記

「受け取る」役割

先日、次女が林間学校に行ってきました。家に帰ってきた日の夜、帰りのバスで見たというジブリの映画のことを嬉しそうに話してくれました。「あのシーンがね、こうでね、ああでね」と話してくれて、話の最後に「こうやってあらずじを誰かに話すのって楽しい」と嬉しそうに言ってくれました。

表現が難しいですが、僕は自分のことを「立派なお父さん」ではないと思っています。それは「立派な社会人」でもないということと意味合いは重なります。体調が安定しないときがあったり、気持ち的にしんどくなってしまうときもあります。家の中でも仕事場でも、誰かを「助ける」ことよりも、誰かに「助けられる」ことの方が多いと感じます。「そんな自分でいいんだ」とすっきりした気持ちで毎日過ごしているかと言えばそんなことはなく、自分はダメだなあと言ってしまうこともありますが、昔は違ったのに…と過去を悔いるような気持ちになってしまいうこともありますが、でも、「今の自分、結構好きだな」と思える軸に戻ってこれるのは、家族や職場の方々、友人、周りの方々が助けてくださったからだと思います。「立派なお父さん」ではない自分に、「お父さん、お父さん」と話をしてくれる、そんな場所があるからこそ、「今・ここ」の自分らしい自分に戻ってこれるのだと思います。

僕は「誰かを助ける仕事」がしたくて、この障害者福祉の仕事を始めました。でも、この18年を振り返ると「助けること」よりも「助けられること」の中で、たくさん学ぶ、今の自分らしさを作ってもらえたように思います。「助けられること」というのは、「助けを受け取れること」でもあり、あると思います。何かを渡し、受け取り合う中で関係が成り立つとすれば、「受け取る役割」を担えることはとても大切なことのように思えます。「渡す人」も「受け取る人」に支えられながら渡している、そう考えると「渡す」受け取る」「助ける」「助けられる」というのは、パラレルなもので、どちらかが一方的に渡している関係などないという気づきが大事なんだろうな、と娘のお土産話から感じました。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2023年4月1日～6月30日

(敬称略・順不同)

(法人の部)

株式会社加美塗装工業所 松井鐵工株式会社 工和工業株式会社 特定非営利活動法人けいき
理容コロニー 岩崎商店

(個人の部)

油利 悦彰 馬場 幸枝 井上 政二 瀬戸 俊之 車谷 二三夫 森 克雄 町野 隆
延田 京子 鈴木 曠二郎 杉本 武志 井形 正信 高岸 恭子 佐々木 久子 前川 阿紀子
藤原 昌 首藤 浩二 松尾 保隆 松田 紀弘 松田 ちか子 川島 伸也 白根 勝雄
渡邊 和恵 片岡 泰彦 村松 克己 坂本 信晴 光田 一二三 戸田 和歌 西村 透
宮村 昭弘 宮崎 京子 小島 純子 保田 信一 四方 世津子 井田 博 濱田 由紀子
中川 恵介 肥塚 泰子 中田 美津子 井上 愛子 神田 佳子 川島 白鶴 久保 信代
井上 明子 小島 武郎 中谷 孝 山下 孝子

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

- 苧谷さんは「初代」通所アシスタント（通所部門のパートスタッフ）のお一人で、なにわの里で働き始めて15年になりますが、なにわの里との出会いはどういう感じだったのでしょうか？

当時インターネットもなかったので、新聞折込の求人募集を見て、だったと思います。福祉の仕事は初めてで不安な気持ちもあったのですが、スタッフがみんなやさしくて、それがとってもありがたかったのを覚えています。分からないことがあって「前に聞いたなー、聞きづらいなー……」と書いていても、誰も嫌な顔一つせずに教えてくれました。

このインタビューを受けるとなって思い返していたのですが、小学校の頃に養護学級があって、障害のある友達との時間を過ごす中で、漠然と「人と関わる仕事がしたいな」と思ったことがありました。今、障害のある方と関わる仕事をさせて頂いて、「子どもの頃に思ったことが、今そうなるんだな」って思います。

- 15年働かれて、この仕事で大変だなと思うことはどんなことですか？

入ったころは右も左もわからず、また利用者さんと言葉でのやりとりができない中で、難しいなと思ったことがありました。知識も何もない状況で、今までの人生経験から得たものだけで関わるわけで、なかなか利用者さんの思いがつかめずに難しいなと感じました。そのときに「利用者さんたちはご自身で体調などを訴えられないこともあるから、こちらが感じ取ってあげないといけないよ」と教えて頂いたことがあります。本当にそうだなと思います。

- 苧谷さんがこの仕事をしていて嬉しいと感じるのはどんな時ですか？

できなかったことができるようになる、そんな場面を見ると嬉しいなと思いますね。

あと、こういう言い方はもしかしたらいけないのかもしれないけど、利用者さんたちを見ていると自分の子どものように思えるときがあって、そういう気持ちで関わることもあります。「自分の子どもだったらどうかな」「もしかしたらこれはいやなんじゃないかな」って考えながら関わりますね。（それは何かきっかけがあって、という感じなんですか？）何かがあってというよりは、15年関わる中でだんだんとそんなふうに思うようになってきたという感じですね。



おたに みやこ
苧谷 三弥子
(通所アシスタント)

第111号

2023年9月1日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail naniwa@naniwanosato.jp

HP <http://naniwanosato.jp>

Facebookでチェック 

右のQRコードから
かんたんアクセス！

